

〇〇水産 御中

**養殖業ビジネス評価書（例）
（魚類養殖）**

2021年〇月〇日

目次

1. 背景と目的
2. 調査プロフィール
3. 総評（エグゼクティブサマリ）
4. 評価結果の一覧
5. 詳細評価結果
6. まとめ

1. 背景と目的

[背景]

我が国周辺水域の水産資源の漁獲が不安定な中、魚食を好む日本人が安定して水産物を楽しむためにも、計画的で安定的に生産できる養殖に対する期待は高く、国の内外を問わない関心の高まりから養殖業を成長させる好機を迎えている。

こうした背景を踏まえ、国は、国内外の需要を見据えて戦略的養殖品目を設定し、生産から販売・輸出に至る総合戦略を立てたうえで、養殖業の振興に本格的に取り組むこととし、令和2年7月に「養殖業成長産業化総合戦略」を策定した。

地域金融機関において、養殖業を営む事業者の事業内容や成長可能性などを適切に評価（事業性評価）し、解決策を検討・提案して必要な支援・資金供給を行うことが求められている。

[目的]

本評価により、〇〇様の養殖事業の維持・成長可能性の評価、ひいては金融機関における養殖事業の事業性評価および融資判断の一助とする。

2. 調査プロフィール

- 取扱対象種 : 真鯛

- 評価実施日 : 2021年〇月〇日

- 評価に際して開示いただいた主な資料
 - 決算書（3期分）
 - 資金繰り表
 - 作業日誌
 - 仕入伝票
 - 出荷管理簿
 - 採算管理資料

3. 総評 (エグゼグティブサマリー)

総合評価結果

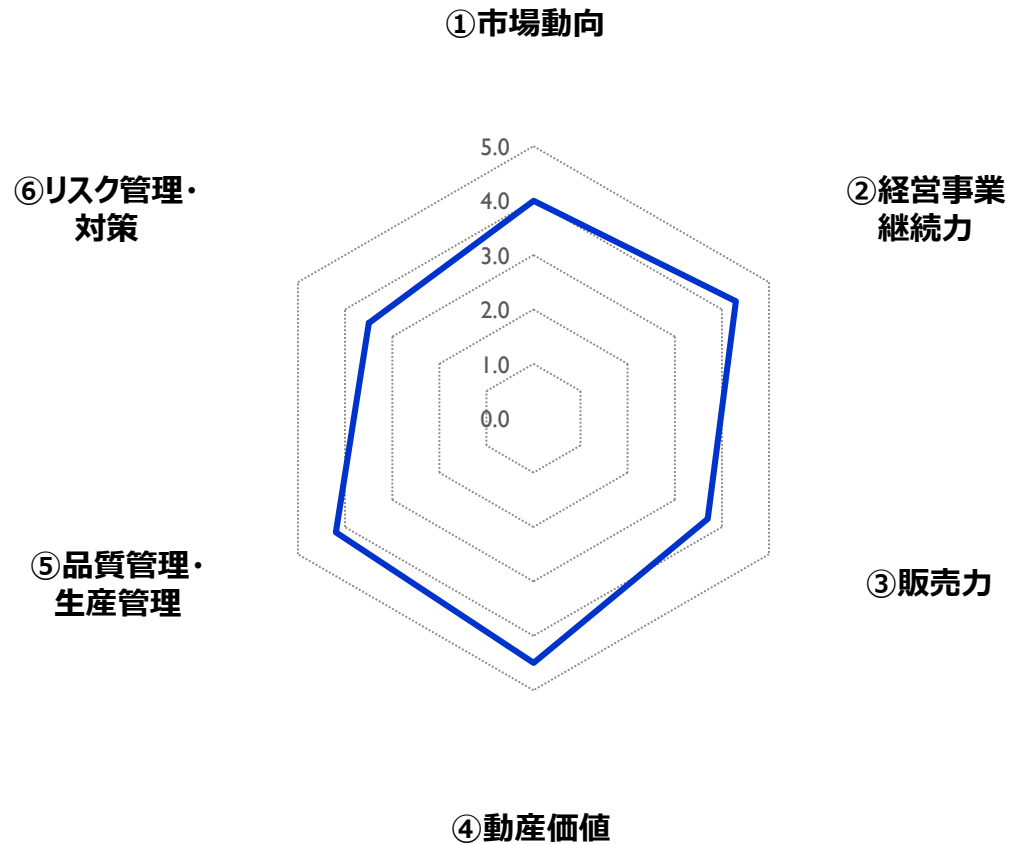
評価合計 **81点** (100点満点換算)
(165点中134点)

評価項目平均 **4.1点/5点**

中期経営計画の策定・管理、単位採算管理を実施した上で、商品のブランド化（商標登録）、IT設備を活用した養殖作業の効率化・品質管理、人材育成にいたるまで、不確実性の高い養殖事業をマネジメントしている養殖業者

評価概要<項目平均5点満点>

- ①市場動向 <4.0点>
- ②経営事業継続力 <4.3点>
- ③販売力 <3.7点>
- ④動産評価 <4.5点>
- ⑤品質管理・生産管理 <4.2点>
- ⑥リスク管理・対策 <3.5点>



4. 評価結果の一覧

No	大項目	No	中項目	配点	評価点	平均点
1	市場動向	1-1	過去・現在・将来の動向	5	3	4.0
		1-2	市場規模	5	5	
2	経営事業継続力	2-1	養殖事業計画・経営基盤	5	5	4.3
		2-2	漁場環境	5	3	
		2-3	養殖事業継続実績	5	5	
		2-4	採算管理の実施	5	5	
		2-5	経営者の経営能力・手腕	5	5	
		2-6	餌の調達力	5	3	
		2-7	人材育成	5	3	
		2-8	事業の将来性・可能性	5	5	
3	販売力	3-1	販路先の確保	5	3	3.7
		3-2	販路拡大への取組み	5	3	
		3-3	商品開発力・加工販売力	5	5	
4	動産価値	4-1	換金容易性	5	3	4.5
		4-2	在庫バランス	5	5	
		4-3	物量	5	5	
		4-4	将来予想価格	5	5	
5	品質管理・生産管理	5-1	稚魚調達・リスク分散	5	5	4.2
		5-2	餌の工夫	5	5	
		5-3	清掃・洗浄	5	5	
		5-4	品質管理全般	5	3	
		5-5	生産管理全般	5	5	
		5-6	衛生管理全般	5	3	
		5-7	出荷時能力	5	5	
		5-8	加工技術・物流	5	5	
		5-9	認証取得	5	3	
		5-10	知財取得	5	3	
6	リスク管理・対策	6-1	天災回避対策	5	5	3.5
		6-2	病気対策	5	5	
		6-3	環境変化	5	3	
		6-4	共済加入有無	5	5	
		6-5	損害保険加入有無	5	0	
		6-6	市場リスク	5	3	
				165	134	4.1

100点換算： 81

各項目において、以下のとおり評価

0・・・何もしていない、1・・・ほんの一部分を実施（十分でない）、3・・・養殖業として基本的な取組みを実施又は問題ない状況

5・・・特別に十分な取組みを実施又は良好な状況

5. 詳細評価結果 ①市場動向

評価結果

評価合計 **8点**/10点

評価項目平均 **4.0点**/5点

- ・当該当該養殖魚の需要トレンドは10年間で横這い減少傾向にあるが、養殖魚種の市場規模は相対的に上位に位置している

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
1	市場動向	1-1	過去・現在・将来の動向	3	・当該養殖魚の需要トレンドは10年間で横這い減少傾向
		1-2	市場規模	5	・養殖魚の出荷高の25%を占める市場規模

5. 詳細評価結果 ②経営事業継続力

評価結果

評価合計 **34点/40点**

評価項目平均 **4.3点/5点**

中期経営計画の策定・管理、単位採算管理を実施した上で、IT設備を活用した養殖作業の効率化、人材育成にいたるまで、積極的かつ先進的に取り組まれている。

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
2	経営事業 継続力	2-1	養殖事業計画・経営基盤	5	・稚魚の仕入れ費用、餌代、設備更新などを考慮し、 中期経営計画を策定・管理（PDCA）を実
		2-2	漁場環境	3	・ミネラルを含んだ川からの水が湾に流れこみ光合成をおこし酸素が発生、 また、黒潮が時々流れ込んで水を浄化する漁場 ・当該漁場の水温に適した魚種を養殖
		2-3	養殖事業継続実績	5	・20年以上事業継続
		2-4	採算管理の実施	5	・1尾当たりの採算管理を実施
		2-5	経営者の経営能力・手腕	5	・ITをフル活用し養殖業務の生産性向上に継続的に取り組み、また、養殖魚 ブランド化や従業員のワークライフバランスにも配慮した経営を実践
		2-6	餌の調達力	3	・系列の餌問屋からの調達
		2-7	人材育成	3	・人材確保が課題
		2-8	事業の将来性・可能性	5	・生産量拡大に向けた設備投資が進捗している

5. 詳細評価結果 ③販売力

評価結果

評価合計 **11点**/15点

評価項目平均 **3.7点**/5点

商品ブランド化（商標登録済み）に取り組むなど販売力強化にかかる取組みがなされている。

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
3	販売力	3-1	販路先の確保	3	・複数の安定した販売先を獲得・維持（各販売先への売上も複数年確認）
		3-2	販路拡大への取組	3	・系列のホテル・レストランへの販売、輸出への取組み
		3-3	商品開発力/加工販売力	5	・商品ブランド化・商標登録済み

5. 詳細評価結果 ④動産価値

評価結果

評価合計 **18点/20点**

評価項目平均 **4.5点/5点**

動産としての価値（換金性）は高く、十分な水揚げ高を有しており、将来においても事業価値の維持・向上が見込まれる。

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
4	動産価値	4-1	換金容易性	3	・回転すしチェーンなど養殖魚の需要は高く換金は容易
		4-2	在庫バランス	5	・年に3～4回の出荷ができるよう養殖サイクルを構築 ・餌の量やタイミングを工夫して育てるスピード調整も状況に応じて実施
		4-3	物量	5	・販売先の需要（仕入れ）を充足するだけの十分な水揚げ高を保有
		4-4	将来予想価格	5	・水揚げ高、流通価格、事業性評価結果を踏まえると、将来においても事業価値が維持・向上すると想定

5. 詳細評価結果 ⑤品質管理・生産管理

評価結果

評価合計 **42点/50点**

評価項目平均 **4.2点/5点**

品質管理、生産管理にIT・設備を積極的に導入し、併せて、認証取得にも取り組んでいる。

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
5	品質管理・ 生産管理	5-1	稚魚調達・リスク分散	5	・3社及时期をずらした調達
		5-2	餌の工夫	5	・オリジナルの栄養剤添加
		5-3	清掃・洗浄	5	・月1回及び網上げ時清掃
		5-4	品質管理全般	3	・置き網の洗浄、ワクチン投与、死魚の駆除、品質管理組織の設置、餌の独自開発など、さまざまな品質向上に取り組んでいる
		5-5	生産管理全般	5	・ワクチン投与時、フィッシュカウンター、カメラ映像で魚数管理を実施 システムで、魚数・重量の管理、作業スケジュール管理、餌（メーカー別）やりの履歴管理、網の清掃履歴管理、魚の死因・病気などの管理を実施
		5-6	衛生管理全般	3	・衛生管理基準を参考に養殖施設・加工・出荷作業環境などにおいて衛生管理を実施
		5-7	出荷時能力	5	・養殖魚の重量に応じて箱詰め。フィッシュポンプで吸い上げて仕分け、専用容器に魚を格納しベルトコンベアーで輸送トラックへ搬送（納入先は、魚を受け取ってから仕分けする必要がなく利便性が高い）
		5-8	加工技術・物流	5	・HACCP認定加工場を利用
		5-9	認証取得	3	・ASA認証取得準備中
		5-10	知財取得	3	・商標登録申請中

5. 詳細評価結果 ⑥リスク管理・対策

評価結果

評価合計 **21点/30点**

評価項目平均 **3.5点/5点**

天災や病気への対策を講じ、共済にも加入していることから、リスク対策は講じられている。ただし、万が一のリスク発生に対して十分な備えをしておくには、既契約分の共済・任意保険でカバーできない損失に対する備えも検討することが望ましい。

No	大項目	No	中項目	得点	コメント
6	リスク管理・対策	6-1	天災回避対策	5	・台風対策として、生け簀に巨大なブロック（重し）を結びつけるなど対策を実施
		6-2	病気対策	5	・ウイルス投与による出荷率向上の効果を確認するなど、病気対策を継続して実施
		6-3	環境変化	3	・漁場周辺の環境変化がないことは把握
		6-4	共済加入有無	5	・共済は、損害がXX%を上回る場合に適用される
		6-5	損害保険加入有無	0	・未加入
		6-6	市場リスク	3	・販路の分散によるリスク回避

6. まとめ

- ・ 養殖事業発展に向けては、商品ブランド力と品質管理力の高さを活かした海外輸出も検討の余地あり。
- ・ 一方、リスクに対する備えにおいては最悪シナリオを想定した備えを検討すれば、金融機関からみて資金回収の確実性がより高まる。

(凡例) セグメント

- I 強みを活かして機会を勝ち取るためには？
- II 弱みを改善して機会を獲得するための施策は？
- III 強みを活かして、脅威を機会に変える施策とは？
- IV 弱みから最悪のシナリオを避けるためには？

